



1 自己評価

I 評価結果

「心豊かで、自ら学び、たくましく生きる児童の育成」を目指して取り組み、確かな学力の育成については目標を上回った。その他の重点目標については、ほぼ目標どおりの達成状況であった。

II 分析・改善方策

確かな学力の育成については、学び合いを授業に取り入れ、授業改善の面で大きな効果があった。補充学習、家庭学習の習慣化も学力の育成に結びつきつつある。コミュニケーション能力の育成、未来を拓く力の育成については、正しい言葉遣いの指導や規範意識の育成を通して向上を図りたい。また、キャリア教育の視点から体験活動を一層充実した内容にしていきたい。

2 学校関係者評価委員会

押目靖雄（久米地域連合町内会長） 青山一美（元愛育委員長、栄養委員）
山田暢子（民生児童委員） 長尾治子（元誠道小学校PTA副会長）
甲本誠道（誠道小学校PTA会長）

3 学校関係者評価

児童が集中して授業に取り組み、落ち着いた学校生活が送れている。学校で取り組みを続け、家庭との連携を図ることで学力の向上も期待できる。育農会など地域との関係も図られているので、今後もよりよい関係作りを目指したい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 1 「よくわかり充実感のある授業の創造」については、学び合いの成果で自分の考えを深め、意欲的に学習に取り組む児童の姿が見られた。次年度も講師を招いての研究授業を行い、より質の高い充実感のある授業を実践し、「自分の思いや考えを表現できる子」の育成を目指したい。また、全国学力学習状況調査の活用や放課後学習の取り組み、家庭学習の充実を図ることで、一層の学力の向上を目指したい。
- 2 「コミュニケーション能力の育成」については、自分の思いが伝えられる児童が多くなってきた。次年度に向けては、あいさつを重視すると共に、その場に応じた発表や正しい言葉遣いについて、授業や学校行事の中で積極的に指導の場を設定するなどして、更なる改善、向上を図って参りたい。
- 3 「未来を拓く力の育成」について、キャリア教育を中心に据え、「夢や希望をもって努力し、意欲的に学び続ける児童」を目指して取り組みたい。中でも体験活動を重視し、児童のコミュニケーション能力や勤労意欲を高められるようにしたい。
- 4 「保護者・地域との連携」については、学校の教育活動や児童の様子についてできるだけオープンに伝えるようにしたい。また、地域の学習環境をしっかりと活用し、農業ボランティアなど地域人材の有効な活用を図り、より成果が上げられるように学校が明確な年間指導計画をたて、調整と活動の工夫をしながら連携していきたい。